

(株)ヴァックスラボ

■札幌本社／札幌市中央区南1条西9丁目4番地2 ラボ1・9ビル5F
TEL.011-252-5215 FAX.011-252-5216
■東京支社／東京都港区芝浦3丁目7番12号 シグマビル2F
TEL.03-5419-7478 FAX.03-5419-7540
WEBサイト <http://www.vacslab.co.jp/>

●設立／平成6年6月 ●資本金／1,700万円 ●従業員数／113名 (2013年6月1日現在)
●業務概要／情報通信に関するソフトウェアの研究、開発並びに販売 情報処理サポートサービス
●認証取得／ISO9001 [JQA-QMA10878] ISO14001 [JQA-EM6245] ISO27001 [JQA-IM1059]

真ん中の茶色の建物が自社ビル



基本的には一人ひとりの技術レベルを上げながら、他社との差別化のためにも特化したノウハウを持たなくてはいいかと考えています。受託業務は通信、製造（鉄鋼、半導体製造装置など）、医療、教育、小売・流通、飲食・宿泊、地方自治体と幅広い業種のみなさんとおつきあ

を活性化させていきたいものですね。稚内しんきんさんのおつきあいは、確か平成9年からだったと記憶しております。当時「株つうけん」の常務さんが稚内出身の方で、紹介していただきました。私どもも銀行さんのおつきあいを考えなければいけない時でした

私◆と◆し◆ん◆き◆ん◆

お互い北海道を大切にしながら、自立したフロンティア精神で社会

いわゆる下請けです。私はこれで良いと考えています。なぜなら、彼らにはマネすることのできない部分、重要で細やかな仕事を担っているからです。その意味で、社員には「日本一の下請け企業になる」と堂々と宣言しております。

経営理念 For You With You

この仕事は常にFace to Face。お客様からの信用と信頼を得ることがもつとも大切です。常々社員にも言っておりますが、自分ではなくお客様の目線に立って何を求められているのかを考えよと。人のために自分がいる、そのことを忘れるなど申していません。

いを頂いておりますが、その中でも当社は特に医療・福祉系に強みを持っています。専門知識とノウハウが要求されるその分野で、受付のオーダーリングから電子カルテ、会計システムまで、つまりフロントからエンドまでシステム化し、サポートすることが出来ます。そのためパッケージソフトや製品の販売も行っています。

それから、私どものお客様から「稚内しんきんさんとききあっているの？優良企業ですね」と言われることがあります。道内の経営者であれば、稚内しんきんさんの財務内容の良さ、自己資本比率の高さを知っていますから、信用力が繋がっているのです。

4Fにあるオフィス
勤務体制はフレックス制を導入



ようなものをつくるという、言わばモノマネでした。2年ほど勤めました。これでは先がないなあと思っていたところ、国内企業に米国IBMのコンピュータが導入されたのはじめたのです。コンピュータのシステム・エンジニアの方が魅力的に思えたその頃、ちょうど計算センター（株HDC・旧北海道電子計算センター／札幌市）ができるという話を聞きまして、設

た。平成6年当時を振り返りますと、まだまだパーソナル・コンピュータ（PC）が主流の社会ではありませんでした。大型

拓かれた未来

から、渡りに船といったところでした。現在でも毎月必ず来てくれますし、あれこれ気軽に話せることも良いですね。本業以外のことでも、例えば私の息子の相談（理容室開業資金）にも乗っていただけました。これからは身近で頼りになる金融機関であってほしいと願っています。

株式会社 ヴァックスラボ

代表取締役
Yoneguchi Masahiro
米口 昌弘さん



●昭和21年、当別町生まれ。東海大学（工学部）を卒業後、化学系の会社に勤務。昭和46年、計算センター（札幌市）立ち上げ時から参加。平成6年独立し、株ヴァックスラボを設立。

お客様のためなら、日本一の下請け企業を目指せ！
メーカーができない部分を担う「株ヴァックスラボ」。

少数精鋭で、人と技術力を大切に 企業を目指して

67歳になります。石狩当別の出身です。高校を卒業するまで住んでおりました。その後、東海大学（工学部）へ進学し、卒業と同時に化学系の会社に就職しました。エンジニアとして製品開発を夢見ていた時代です。

立ち上げた昭和46年の10月から勤務いたしました。足掛け14年お世話になりましたが、その後、私の上司が独立したのを契機に退職し、そちらへついて行くことに。そのうちの平成6年6月に独立し、会社を立ち上げるようになりました。

私の実家はいまも当別で三代続く呉服屋を営んでおりますが、この私にも「商人（あきんど）」の血が流れているのでし

と。先ほど勤めた2年ほど勤めましたが、これでは先がないなあと思っていたところ、国内企業に米国IBMのコンピュータが導入されたのはじめたのです。コンピュータのシステム・エンジニアの方が魅力的に思えたその頃、ちょうど計算センター（株HDC・旧北海道電子計算センター／札幌市）ができるという話を聞きまして、設

た。平成6年当時を振り返りますと、まだまだパーソナル・コンピュータ（PC）が主流の社会ではありませんでした。大型

のホストコンピュータ（メインフレーム／オフコン）と端末では処理能力も記憶容量もまるで違いましたから。しかしながら私は、必ずPCが主役になる時代が来ることを予測し、オープンシステム化に早くから着手してきました。※オープンシステムとは相互運用性、移植性、オープン標準などを持ったコンピュータシステムのこと。主にUNIX系を指す。

以来、コンピュータシステム及びソフトウェア開発の受注、情報処理業務の受託、データファイリング及び保管業務などを中心とした業務を展開してきました。そんな中、大手の「株つうけん」グループさんから提携と資本参加をして頂けることになり、従来の受託業務に加えて大口の取引が可能となり、売上も飛躍的に伸びていきました。

創立当初の社名「株ヴァックス研究所」を現社名に改め、その後、増資やISO認証取得、東京支社の開設、プライバシーマーク認証取得などを次々と行ってきたところです。

現在、売上の大部分を占めているのは、つうけんグループさんをはじめ、大手のメーカーさんのお取引によるものです。

皆様の喜びは私たちの喜び。
人の喜びを自分の喜びにせよ。

